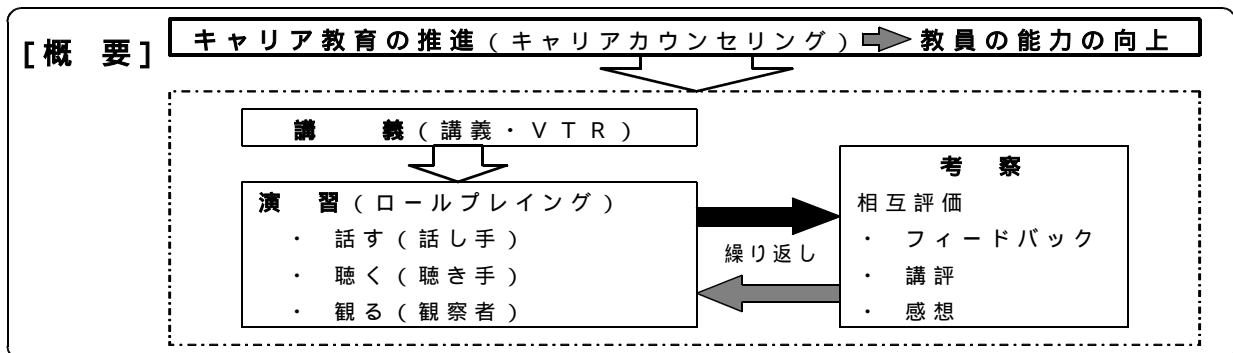


## 7 ロールプレイングを用いて、キャリアカウンセリング能力を向上させる研修を計画する



キャリア教育を推進していくために、キャリアカウンセリング能力の向上が求められる

キャリア教育の推進が求められている教育現場では、教員一人ひとりのコミュニケーションスキルの向上が望まれ、児童生徒のコミュニケーション能力を向上させるためには、教員にもその資質が求められる。

キャリアカウンセリングは、児童生徒の進路やライフプランに関わる相談に対するカウンセリングであるが、カウンセリングとは大部分が言葉を通して行う援助過程であるので、言語的表現力が問われる活動である。そこではカウンセラーがクライアントの自己理解を進め、良い意志決定がとれるようになることを援助するのであり、それが出来る環境を作り、情報や刺激を提供するのが教員の役割である。

キャリアカウンセリングを行うにあたっては、話す力・聴く力はもとより、観る力も必要とされる。本研修は、これらの能力をみがぐために、ロールプレイングを行って、すべての教員がキャリア教育を推進できる力を身に付けようとするものである。

キャリア教育に係る共通の学習をする

後に行う演習のために、研修会に参加する教員

が全員で、20分程度の共通の学習を行う。学習の内容については、次のようなものを用意する。

キャリア教育についての講義

キャリア教育担当の教員が、キャリア教育についての講義を行う。

VTRの視聴

市販されているキャリアカウンセリングの実際などのVTRを視聴する。

キャリア教育の研修であるため、キャリア教育にかかわる内容で学習するのが望ましいが、自校の課題などを取り上げてよい。

グループを作り演習を行う

### 1 3人1組のグループを作る

研修に参加した教員を、無作為に3人ずつのグループに分ける。できれば、学年や分掌や教科の違う、日常のつきあいが少ないメンバーになることが望ましい。

### 2 演習の役割・順番を決める

3人を話し手・聴き手・観察者の3役に分け、最初に行う役を決める。

### 3 キャリアカウンセリング演習

話し手は、前半に行った共通の学習の内容について、その概要や感想を5分間でまとめて話をする。

聴き手は、適切なカウンセリングスキルを用いて聴き役に徹する。

観察者は、話し手の話し方・聴き手の聞き方を観察する。

#### 4 相互評価を行う

##### (1) フィードバック

聴き手は、理解した話の内容を話し手に伝え内容を確認してもらおう。

##### (2) 講評

観察者は、これまでのやりとりを見ていて感じたことを述べる。

##### (3) 感想

話し手は、聴き手の聴き方や観察者の講評を聞いて感じたことを述べる。

以上のサイクルが終われば、話し手・聴き手・観察者の役割を交代し、3交代ですべての役を経験してみる。観察者のチェック等により指摘された改善点について、二回目以降の演習において各役割で工夫する。

#### 5 全体会(まとめ)

各グループの代表者数名に、本研修で感じたことを全体会で発表してもらおう。適当な指導者がいれば、指導助言を頂く方法もある。

演習を振り返って、それぞれの立場に必要な資質を考える

#### 1 話し手

話し手は、最大限に時間を活用して学習の内容を話す。重点事項についてはジェスチャーを交えるなどして、自分の話したいことが正しくうまく伝わるように留意する。また、発表中は相手に意見を求めないようにし、語ることに徹する。



研修の様子

フィードバックの際には、自分の話した内容が正しく聴き手に伝わっているか確認する。話し方・伝え方のどんなところが良くなかったのかを工夫することによってコミュニケーション能力が高まる。また、相手の反応によって話の内容・量・深度が変わることに気付いてほしい。どのような反応で話しやすくなり、どのような反応で不安になるのか体感してみよう。

#### 2 聴き手

聴き手は適切なコミュニケーションスキルで応じ、話し手の発表中は、質問をしたり意見を述べたりはしないようにする。どうしたら話し手が楽に話せるようになるか工夫する。また、面談中のメモは相手にとってプレッシャーとなるため、必要な記録は後で行うようにする。話しやすい雰囲気作りができたか、相手との距離・視線・姿勢・相づち・短いフィードバックの言葉など、相手が話しやすく感じる聴き方ができたかどうか考察してみよう。

#### 3 観察者

話には加わらず、話し手・聴き手の様子をよく観察し、雰囲気・話の流れ・雰囲気が変わるきっかけとなった言葉や聴き手の仕草などを観る。率直な感想を述べる中で、肯定的評価が効果を持つことに気付いてほしい。失敗の指摘よりも成功の確認を実践してみよう。

教員のキャリアカウンセリング能力が、児童生徒のキャリア形成を左右する

今回の研修では三者に役割分担したが、実際の面接ではこの三者を同時にしなければならない。何らかの問題に直面した児童生徒の生きる力を育むために、教員のキャリアカウンセリング能力を日常的にみがいておく必要がある。

キャリアカウンセリングを実施するにあたっては、児童生徒とのコミュニケーション能力が非常に大切であり、与える印象によって生徒の受け止めは大きく異なる。児童生徒にとって、聴き手の姿勢が最も重要であることは言うまでもない。